



## 町田章所長 中国社会科学院名誉教授称号授与

去る11月3日、北京の中国社会科学院学術報告庁において標記授与式がおこなわれました。中国社会科学院の歴史考古部門では国内外を問わず町田所長が最初の受賞者であり、大変名誉なことです。授与式では、中国社会科学院考古研究所副所長白雲翔氏が司会を務め、まず町田所長の経歴紹介があり、続いて劉慶柱考古研究所長の推薦の事由説明がおこなわれました。劉所長があげた推薦の理由は3つあり、最大の理由は、町田所長がこれまでおこなってきた中国考古学の成果が、中国においても極めて高い評価を受けている事です。また後で詳しく述べますが1985年以来、中国社会科学院考古研究所と奈良文化財研究所との共同研究を町田所長が積極的に推進し、華々しい共同研究成果を達成したことです。更に、町田所長がユネスコの世界文化遺産保護機構の参与として新疆ウイグル自治区交河故城、陝西省唐長安城大明宮含元殿の指定に尽力したことです。この後、中国社会科学院副院長王洛林氏から証書が授与され、中国社会科学院合作局副局長李薇女史、中国文物研究所長呉加安氏、北京大学考古文博院長高嵩文氏から祝辞を賜りました。これに対し町田所長から受賞理由の一つである中国社会科学



名誉教授授与の風景

学院考古研究所との共同研究は、鈴木嘉吉元所長、田中琢前所長を始めとする先輩諸氏、研究員の努力のたまものであり、名誉教授称号は研究所を代表して拝受しますと述べました。授賞式終了後、町田所長による受賞記念学術講演会があり、最近話題になった加速器質量分析法（AMS）による炭素14年代測定で提示された弥生時代早期・前期の新しい年代観に対し、当研究所の光谷拓実室長がおこなっている年輪年代法の成果を踏まえ、中国・韓国の文化内容と弥生文化を対比しながら、新たな所見を発表しました。中国考古学界でも注目されているテーマであり、好評を博しました。

### 中国社会科学院考古研究所との共同研究

1985年6月、坪井清足元所長を団長とする奈文研代表団が中国社会科学院考古研究所を訪問したのが交流の始まりです。1991年6月には、両研究所は、5カ年計画の「友好共同研究議定書」を調印し、「日本古代都城と中国都城との考古学比較研究」を研究課題とする共同研究が始まりました。毎年、研究員を相互に派遣し、学術交流を図り、研究報告会等を開催しました。1992年秋には、洛陽城の白居易邸の発掘調査に、1994年秋から冬にかけては北魏洛陽永寧寺の発掘調査に参加しました。

協定期間が過ぎた1996年6月、都城の共同発掘調査を眼目とする第2次「友好共同研究議定書」を交わしました。この年には漢長安城の宮殿発掘調査を計画し、発掘届を国家文物局に提出しましたが、中国側の事情で年内の調査は実現できませんでした。翌年から2000年度までの間、武帝が后妃のために造営した宮殿である桂宮の共同発掘調査を実施し、現在、双方で報告書を作成しています。

2001年度には、第3次「友好共同研究議定書」を新たに調印し、5カ年計画で唐長安城大明宮太液池の共同発掘調査を実施しているところです。

（埋蔵文化財センター 巽淳一郎）